パラスポーツの振興について

推進協議会第４回専門部会	
R8.11.2	資料４－５

東京2020パラリンピック及び東京2025デフリンピックのレガシーを継承・発展させながら、パラスポーツを社会に根付かせていくための施策を推進

＜2035年に向けた政策目標＞ ○障害のある都民のスポーツ実施率50%以上　○パラスポーツに関心がある都民の割合80%以上

障害の有無・年齢に関わらず、パラスポーツを楽しむための取組を推進

	【目指す姿】	【主な取組】
理解促進・普及啓発 	○ファンやサポーターの裾野拡大 ○国際大会をはじめとしたパラスポーツの観戦機会が充実 ○パラスポーツを通じた相互理解の促進	◆パラリンピックを開催した８・９月を「TOKYOパラスポーツ月間」と位置付け、多様な主体と連携してパラスポーツの魅力を発信 ◆パラアスリートによるトークショーや障害の有無を問わず参加できるボッチャ大会などパラスポーツの魅力を体感できるイベント「ＢＥＹＯＮＤ　ＳＴＡＤＩＵＭ」の実施 ◆企業・団体による持続的なパラスポーツ振興の取組の後押し ◆パラスポーツ国際大会の誘致・開催を支援
場の充実 	○身近な活動の場・機会の充実 ○施設のバリアフリー環境が充実	◆都立特別支援学校体育施設を活用し、施設貸出や体験教室を実施 ◆障害の有無や場所を問わず楽しめるｅスポーツの特徴を生かし、各種イベント等へ出展することで、障害のある人とない人との交流や理解を促進 ◆区市町村におけるスポーツ・医療・福祉・教育分野等が連携して行う取組の後押し ◆障害者のスポーツ施設利用促進に向け、施設における好事例の発信やアドバイザーの派遣等により、環境整備を促進
人材育成・活用 	○パラスポーツを支える人材の裾野拡大と活用促進 ○支える人材同士の交流機会や学びの場も充実	◆区市町村職員やスポーツ・福祉・医療等の関係者を対象に、セミナーやフォーラムを等を開催し、パラスポーツ振興の担い手を育成 ◆障害者スポーツボランティアポータルサイトにより、ボランティア情報の発信や学びの場を提供し、支える人材の活動を活性化 ◆パラスポーツ指導員等の活動実績をデジタルで記録・可視化するアプリを導入し、パラスポーツ指導員等のパラスポーツを支える人材の活動を促進
競技力向上 	○国際大会で活躍するパラアスリートが継続的に輩出されるとともに、より身近な存在に ○競技スポーツを始める障害者が増加	◆次世代を担う選手を発掘・育成 ◆国際大会で活躍できる東京ゆかりの選手の強化 ◆都にゆかりのあるアスリート等が都内各地域で講師や指導者とる機会を提供 ◆都内で活動するパラスポーツ競技団体を様々な形で支援